



FSCだより

北里大学獣医学部 附属フィールドサイエンスセンター

第 68 号 2018. 2. 27

FSCの設立趣旨

土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

十和田農場から

新しい仲間がふえました

近年日本国内のマンクスロフタンは近親交配が進み、マンクスロフタンを飼育している担当者は交配時には出来るだけ近交係数が高くならないように頭を悩ませながら交配を行っているところが多いのが現状です。

御多分に漏れず十和田農場もその一件です。

そんな折、北海道の有限会社ハイジ牧場さんから、マンクスロフタンの雄が必要であれば譲りますとの連絡がありました。

十和田農場としては願ってもない嬉しい話ですので、早速ハイジ牧場さんと交渉をして、9月末にこちらから引き取りに行くということで段取りを進めました。

こちらとしても貴重なマンクスロフタンの雄を無償で頂く訳にはいかないのですが、十和田農場のマンクスロフタンの雌3頭と交換とのことになり、ハイジ牧場に連れていきました。

ついではとっては申し訳ないのですが、ハイジ牧場さんからサフォークの雄も提供いただくことになりました。

このサフォークの雄は見事な体格をした立派な雄で、体重が110kgを超える体格で、大学で飼育している90kgの雄に比較すると見るからにデカイ！

そして、性格は穏やかで人なれしていて、とても扱いやすい雄ヒツジです。

一方、マンクスロフタンの雄は2017年の春に生まれた小さくて可愛い雄ヒツジです。本来臆病なマンクスロフタンですがこちらも人に馴れしていて、とても扱いやすい羊です。

ハイジ牧場でみなさんに可愛がられ大切に育てられてきたからでしょう。

連れて来て1ヶ月が過ぎた11月に、さっそくサフォークの雄はハーネスを装着して雌の群れに入舎して交配に供用した処、一生懸命頑張って交配したようですので、来年の

春4月には新しい子羊たちが元気に生まれてくることでしょう。
マンクスロフトンはまだ小さいので今年は供用しません。



八雲牧場から

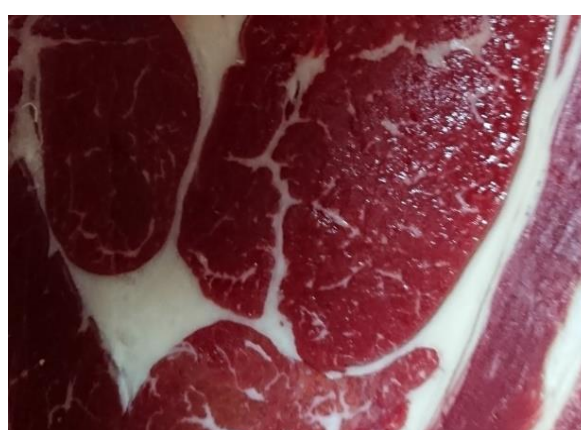
第7回 北海道肉専用種枝肉共励会において赤身賞受賞！

11月9日に北海道肉専用種枝肉共励会が、北海道畜産公社道東事業所十勝工場（帯広市）で開催されました。

毎年出品しておりますが、今年は日本短角種の部で赤身種を受賞させていただきました。審査対象は通常の格付けとは異なり、肉量、赤身の特徴、飼養方法なども加味され評価されます。日本短角種の最優秀賞は北十勝ファームが受賞しましたが、北里八雲牛のように脂肪が黄色く、サシの少ない赤身とは異なり、比較的脂肪は白く、サシも多く入っています。



最優秀賞を受賞した北十勝ファームの枝肉



赤身賞を受賞した北里八雲牛

（編集担当：畔柳 正）